



被害のあった豆畑

北海道では、8月に入って、台風7号、台風11号、台風9号と短い期間に連続して台風が上陸しました。北海道で1年に台風が3回上陸するのは観測史上初めてのことです。そのほか、通過、接近も3回に上り、「過去に例のない事態」（札幌管区気象台）となり、道内各地に大きな被害をもたらしました。

一方漁業被害の方は、養殖の施設や成貝などの被害が合せて約6852万円。住宅などの一般家屋被害が17件に上っています。

洞爺湖町でも、台風10号の影響で、町内各地域で停電となり、3日間通電されない地域もありました。農業、漁業や一般家屋の被害も続出。9月21日現在で、農業被害では、豆類やながいもなどの農作物被害が約16

今年まで北海道では、台風が道内に本格的に上陸するのは、数年に1度ほどしかなく、また台風が多くは、北海道へ上陸する前に温帯低気圧と変化する場合が多い状況でした。今回の一連の台風被害を見ると、このような認識を大きく超えるものとなりました。災害による被害をできるだけ少なくするため、1人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や町などが取り組む「公助」が重要だと言われています。その中で基本となるのは「自助」、1人ひとりが自分の身の安全を守ることです。合せて地域での助け合い「共助」がそれと結びつくことで、より強固な体制を作ることができます。現在町では、その一つとして、自治会を中心した地域の防災組織「自主防災組織」の結成を促しています。

東日本大震災の時にも言われましたが、改めて「想定外」をも想定する防災の視点が必要となっています。

「想定外」を想定する

地域から防災の強化を！